

令和3年度
学校自己評価報告書

令和4年6月1日
学校法人 中央医療学園
中央医療技術専門学校

令和3年度 学校自己評価について

1. 教育理念
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学習成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献

令和3年度 学校自己評価について

学校法人 中央医療学園 中央医療技術専門学校は、東京都葛飾区で診療放射線技師を養成する教育機関として、昭和 34 年に開校しました。実践的な職業教育により、最前線で活躍できる診療放射線技師の育成を行っております。

本校では、平成 30 年度より、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目を作成し、現状・課題の把握および改善策の検討・実施いたしました。

また、評価にあたっては、平成 14 年度から実施している学生授業評価アンケートの今年度の結果なども踏まえて行っています。今後は、この学校自己評価の結果を生かして、教育の質を向上してまいります。

1. 対象期間

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

2. 実施方法

学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会で評価を行った。

・委員会の構成は、委員長 学校長

委員 教務部長、法人事務局次長（財務）

教務課長、学生課長、学校総務課長（事務長） とした。

- ・評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価段階を 4 段階とし（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）各項目について評価をした。
- ・評価は、年一回年度末に行うこととした。
- ・評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行った。

1. 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	特色ある職業教育が行なわれているか	3
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を持っているか	3
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3

〈現状〉

- ・本校の目的は、医療の発展と国民の健康に寄与する診療放射線技師の養成にある。その為、教育理念として「現場で活躍できる職業人の育成」を掲げ、入学直後から病院見学を取り入れるなど、より実践的な教育を行ってきたが、新型コロナウイルス感染対策で昨年度に続いて実施出来なかった。
- ・本校は、診療放射線技師を養成する単科の学校であり、開校以来 60 年の歴史をもち、日本で最も多くの診療放射線技師を育てている学校の一つである。また、開学以来、夜間の過程を設置し働きながら学べる環境を提供し続けている。
- ・医療界のニーズとして、診療放射線技師教育には 4 年制教育を求めている、そのニーズにこたえるため、将来的には本校も 4 年制（大学）を目指している。
- ・ホームページに「建学の精神として」理念の概要を明記し、本校を志望する受験生および保護者に知らしめている。

〈今後の改善方策〉

- ・放射線技師の英会話力の向上が必要と考え「英語」の教育内容を改善する。英会話教室NOVAから外国人講師を招聘し、学生に実践的な英会話授業を提供する。
- ・学生に学校への愛着を深めさせるため、週に一度程度の頻度で授業開始前に校歌を流すよう検討する。
- ・校訓である「深い人類愛」、「強い探求心」を前面に掲げ、学力・技術力・研究心を身につけることはもちろん、将来医療技術者として必要となる人に対する思いやりや心遣いの重要性を、より一層力を入れて教育していく。また上記のことを、学校説明会などを通して積極的に広報していく。
- ・R4 年 4 月にホームページをリニューアルする。在校生や教員からの意見を取り入れ、発信側と使用側双方にとって充実したものにするため検討する。

2. 学校運営

	評価項目	評価
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
5	情報のシステム化による業務の効率化が図られているか	3

〈現状〉

- ・年度ごとに、法人の目標、学校の目標を事業計画に明示し、その目標のもと運営を行っている。
- ・昨年度の事業計画であった新カリキュラムの策定は、無事申請が承認され、令和4年度の新入生から新カリキュラムで授業をスタートさせる。
- ・毎月全体会議前に理事長も出席する役職者会議を開催し、学校運営に係わることについて確認、意思統一を図っている。役職者会議で決議されたことは学校の職員・教員合同の全体会議で報告し、学校運営の意思統一を図ると共に、役職者会議・全体会議のそれぞれの議事録を作成し、齟齬が生じないようにしている。
- ・規程集(学校法人寄附行為・就業規則・組織規程・給与規程・研修規程等)は教務室に置いてあり何時でも誰でも閲覧できる。
- ・昨年度策定した学則の細則をガイダンスで細かく説明し、学生への周知を徹底している。
- ・学生管理は、専用ソフトを使用し学生募集から卒業までを管理している。また、学内には職員共通のファイルサーバーを置き、情報共有に努めている。
- ・昨年度に引き続き、学生連絡用 Drop Box 掲示板を使用して学生への連絡を行った。
- ・Microsoft365 を導入し、メールやデータをいつでも何処でも見られるようにした。
- ・教職員用にグループウェアを使用しての情報共有を試みたが、準備不足で利用を断念した。

〈今後の改善方策〉

- ・ファイルサーバーのバックアップは常に行っているが、災害時に対応する二次的なバックアップを行なえるよう、校内の別の場所にバックアップサーバーを設置するかクラウドなどへのバックアップを含め、費用等を比較検討する。
- ・事業計画の策定にあたり、次年度の予算だけでなく授業の運営を含め検討し、学校の運営に沿うような事業計画を作る方法を考えたい。
- ・コロナ禍で対面授業を行うために、応急的に格安のスピーカーとピンマイクのセットを購入したが、故障したり乾電池の消費量が多くなっている。1号館の教室に見合うAV機器の選定を検討したい。

3. 教育活動

	評価項目	評価
1	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
2	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	3
3	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
4	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
5	授業評価の実施、評価体制が整っている	3
6	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	3
7	資格取得の指導体制はある	4

〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所指定規則に基づきカリキュラムを作成し、令和4年度新入生から新カリキュラムによる授業を行っていく。
- ・成績の評価は学則に則って行われており、講義については期末試験、実習については実習項目ごとに提出されるレポートをもって評価されている。また、最終的な単位の認定、進級、卒業の判定は学年末に行われる専任教員による教務会議によって行われた。
- ・進級要件など、学則の運用に必要な細目は細則に定め、実施した。
- ・授業内容・計画については、年度初めにシラバスを用いて、教科の目標、評価の基準などを学生に知らしめた。
- ・シラバスは、ホームページに掲載した。
- ・例年、授業評価については、学期ごとに学生に授業アンケート（マークシート・自由筆記・オンライン）を行い、教員にその内容をフィードバックした。
- ・今年度は、年度末には教員のFDとして、外部講師を招き指導に対する講演を実施した。
- ・本年度試験的に外部非常勤講師に対しFDを行った。
- ・最上級学年においては、診療放射線技師国家試験に向け、月に1回程度の模擬試験を実施し、学生の学力の把握に努めた。また、試験結果において指導の必要が認められる学生については、個別に課題を与え指導している。

〈今後の改善方策〉

- ・2022年度に改正された診療放射線技師養成所指定規則改正に合わせ、臨床実習を含めたカリキュラムの見直しを行う。
- ・令和4年度の前期に外部の評価者を導入し当校教員に対しFDを行っていく。

FDについて・・・授業参観表（添付資料）をもとに、まず前期と後期に参観を1回行う。

教務会議にて行うことを周知した。

授業評価については、中島先生を中心にFD委員会を立ち上げる。（4～5名）

目的、ルールをしっかりと定め、教員に周知してから行う。

目的、ルールは、よりよい授業にする為等、前向きなものとする。

4. 学修成果

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

〈現状〉

- ・学生課の中に、就職担当を置き求人先や学生との対応を行っている。最上級生に対し4月中に就職活動に向けてのガイダンスを実施している。全体として履歴書の書き方や面接の受け方の指導を行うとともに、希望する学生については個別でも履歴書の添削や模擬面接の指導を行った。
- ・学生の就職希望施設に事前見学・研修や説明会の要望を連絡した。
- ・診療放射線技師国家試験の問題集・解説集を学校独自で作成し、最上級学生のみではなく昼間部2年生、夜間部3年生にも配布し、早期に国家試験に向けての意識を持つように指導した。
- ・1年時から、専門科目を取り入れることによって診療放射線技師を目指すモチベーションを維持してもらう。また、例年、1年時春に、病院を見学し医療現場での業務内容を見てもらう事により、将来の自分をイメージさせ勉強に活かしてもらっていたが、本年度も新型コロナウイルス感染対策のため実施することができなかった。
- ・在学時から研究に興味をもっている学生は、例年、グループ研究として教員の指導のもと実験・研究を行い、纏めたものを日本放射線技術学会などで発表した。昨年度は日本放射線技術学会関東支部研究発表大会で研究発表を行った。
- ・卒業後、さらに上級の学校である大学や大学院を目指す学生のためには、編入学試験情報を掲示している。
- ・卒業時に、任意ではあるが卒業後の住所・就職先などを報告してもらい卒業教育などの連絡に充てている。
- ・国家試験不合格者には、学校で実施している国家試験形式の実力試験・医用放射線試験に参加を推奨している。また、既卒者国試対策ワーキング・グループを設置し、国家試験直前講習会「かつしかセミナー」を実施した。
- ・中途退学や不登校の要因の1つに学生のメンタル面の弱さが考えられるので、専門のカウンセラーを置いてメンタルケアを行った。今年度はオンラインと対面でカウンセリングを実施した。

〈今後の改善方策〉

◎留年生対策

- ・留年生に対する少人数指導として、教員一人に2～3名を割当て指導する。
- ・指導教員が担当の留年生と面談を行い、個々の目標を設定させる。目標を達成するために個々にスケジュールを設定させ、進捗状況を適宜確認する。
- ・毎週模擬試験を行い、その解説を授業の空き時間を全て使い作成させる。

- ・臨床実習中は別途時間割を組み、補講を継続する。

◎国家試験対策

- ・国家試験形式の模擬試験を月に一回程度行う。模擬試験の結果で成績不良者には課題を与え指導を行なう。また夏休み中は対象者に補講を行なう。
- ・出席率向上を目指し、毎日、学生の出席状況を把握する。無断欠席をした学生には電話連絡をし、状況を確認のうえ出席するように促す。
- ・本校では、診療放射線技師国家資格取得が最も大きい目標の一つであるので、毎年、最上級生の指導については、担任を中心に全教員でより良い方法を常に議論・検討していく。

◎その他

- ・中途退学の原因は、下級生については原因の多くの部分が学力不足によるものと考えられ、入学試験合格から入学式までの入学前教育、入学直後の基礎教育を引き続き充実していく。

5. 学生支援

	評価項目	評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3

〈現状〉

- ・求人数については新型コロナウイルス前の8～9割程度まで回復している。
就職支援については4-1「就職率の向上が図られているか」に記述。
- ・求人情報についてはPDF化することで校内のみに限らず、校外でも確認できるようにすることで、コロナ等で登校できない学生にも閲覧できるように配慮した。
- ・学生の進路の一つに大学への編入があり、その進路支援のため、編入情報の提供、入学試験指導（過去問題の提供や勉強方法のサポート等）を行っている。
- ・学生相談室を設け学生の精神的な悩みや友人との問題などに対する専門家によるカウンセリングを行っている。利用方法等についてはクラウド上の掲示や校内一斉メールにて学生に周知をした。
- ・新生向けのカウンセラーによる講義は新型コロナウイルス感染対策のためオンラインで行なった。
- ・学生本人又保護者の経済的急変に備え、学校独自の奨学金を用意している。無利子の奨学金で、卒業後定額を返還するシステムである。
- ・学生の健康管理については、年一度の健康診断を行い、結果を学生に渡している。
- ・近隣病院マップを作成した。教職員と学生に共有する。
- ・課外活動は運動部としてバレー部、テニス部、Build up & Shape up 同好会など、文化部としてピエゾ（超音波）部、軽音楽部などがあり、若干の部費と活動場所を提供している。
※昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、課外活動は全て未実施となった。
- ・中央医療祭（学園祭）を学生主体で行い、学生同士のコミュニケーションを図るとともに協力して一つのイベントを行う協調性や経済的、社会的適応能力を身に着ける事を目標として、運営の補助や費用の負担等を行っている。
※例年、飲食を伴う催しが多いこともあり、検討したが昨年に引き続き中止となった。
- ・受動喫煙を考慮して校内は全て禁煙としている。
- ・ラウンジに電子レンジ、給湯器を配置して、学生の飲食を補助している。ラウンジの使用については、東京都の新型コロナウイルスの感染状況等を考慮し可能な範囲で使用した。
- ・保護者には半期ごとに成績送付、最上級生には模擬試験の成績送付や保護者会などを行っている。
また、学生の勤惰を早く把握してもらうため、学生が一定数(原則同一授業3回)欠席したときは、学

生の同意をとり保護者に連絡をしている。

- ・最上級生時に、保護者会を設け学生の現況を説明し、国家試験に向けて保護者に協力をお願いする。今年度においては11/6（土）に保護者会を対面形式で実施をした。
- ・国家試験に不合格となった学生に対して行なう国家試験直前セミナーを、感染対策を行いながら1/21（金）から2/4（金）の期間で対面形式にて実施をした。
- ・感染対策を取ることで既卒者に対しての図書室の利用を実施した。
- ・既卒者の就職について、学生課の就職係が担当し、在校生と同様に就職支援の対応している。

〈今後の改善方策〉

- ・学生の個人のロッカーは、学生から強い要望があり再検討した結果、必要面積をクリア出来ることが分かったため設置することで進める。
- ・かつしかセミナーについて、過去の受講者のアンケートからもう少し早い時期での実施の意見もあるため、実施時期や方法について検討していく。
- ・コロナウイルス感染状況を踏まえて、課外活動や学校内の施設（2号館屋上）の再開活動の基準について検討する。

6. 教育環境

	評価項目	評価
1	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	3
2	実習やインターンシップについて、十分な教育体制が整っているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3

〈現状〉

- ・新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン授業と対面授業を交互に行うことにより対策をしてきた。オンライン授業を行う上で校内のネット環境を整えてきた。
- ・学生からの質問に答えられるように学生用のメール受付を行った。
- ・校内学生実習用放射線器具・設備に関しては診療放射線技師養成所指定規則に従って準備されている。学生の学習用図書は図書室に一万冊以上の蔵書があり、パソコンによる検索が可能である。
- ・図書室は今年度は新型コロナウイルス感染対策で利用時間に制限を設け午前9時より午後8時までを開館時間とした。
- ・臨床実習においても診療放射線技師養成所指定規則に従って行っており、事前に病院実習先の方による説明会を行っている。
- ・防火に対する意識向上のため、地元消防署の協力のもと年一回の防災訓練を行っていたが、今年度も新型コロナウイルス感染対策で実施出来なかった。

〈今後の目標〉

- ・現在、放射線医療における医療機器は日進月歩の進化を遂げている。今後、最新の放射線医療に対応できるようにデジタル撮影装置などによる校内実習の実現や、コンピュータ社会への対応が可能な人材育成を行っていく。
- ・学生がより良い学校生活を送れるよう、教室、実験室の清掃は行き届いているか、整理整頓できているか、点検し、整備する。
- ・指定規則の変更で、使用しなくなった自動現像機のある暗室の再利用方法を検討していく。

7. 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	入学選考は、適正かつ公平な基準により行われているか	4
4	学納金は、妥当なものとなっているか	4

〈現状〉

- ・例年、学生募集要項（パンフレット）を作成し、全国の受験生に対し配布を行っている。また、高校訪問と Web で学校説明会を行い、当校の特色や卒業後の進路などの説明を行っている。
- ・校内においても、年に 12 回の学校説明会を行い、診療放射線技師国家試験の現状や就職に関する情報を説明している。見学会においては実際に当校の施設を見学してもらい当校の特色を理解してもらっている。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、一部オンラインでの開催となった。
- ・当校の学生募集要項やホームページにおいて当校の国家試験合格率の結果報告や国家試験に対する学生受験対策の内容を掲載している。
- ・当校入学選抜考査は学内に入試委員会を設け、入試問題の作成・実施・採点を行い、入試問題に対し適切な試験問題が作成されているか検討を行っている。
- ・入試形態においては、第 4 回一般入試を夜間部のみの募集から昼・夜間部の募集へと変更した。
- ・入学選抜考査は筆記試験（試験時間 60 分）と受験生個人面接試験（面接官 2 名）を行い、筆記試験成績上位者及び、面接合格者の中より選抜を行っている。最終的な合格者は教務会議において最終決定される。
- ・学納金は同分野の学納金水準を把握、勘案し適正に設定している。必要な費用はすべて募集要項に記載しており、入学後に別途徴収することのないよう配慮している。
- ・少しでも多く定員を確保するため、指定校数推薦による入試を行うことを決定した。

〈今後の検討要綱〉

- ・新入生の学力向上の対策として、一般入試での筆記試験の科目の見直し等を検討する。
- ・校内で実施している学校説明会について実施回ごとに対象となる参加者（高校生の学年等）が異なり参加者が求める情報も違うため、今までの参加者情報をもとに実情に合わせた内容へと変更する。
- ・指定校推薦の実施に向けて、広報活動として高校訪問を増やしていく。
- ・新入生の学力を上げるため、学生募集の改善、具体的には昼間部の募集を 3 月までに行い、進路未決定者が受験しやすい環境を作る。入学試験問題の難易度を上げる、合格最低点を上げる、などを検討する。また、応募者を増やすため広報活動に力を入れる。具体的には、オープンキャンパスの回数を増やす、内容を検討するなど。

8. 財務

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
2	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

〈現状〉

- ・少子化傾向が続く中、学生数をどれだけ維持できるかが、収入の安定に繋がる。それとともに、収支のより緻密な分析が必要となる。学校全体では、令和3年4月1日付で荒川区にあった専門学校が事業譲渡により廃校になったため事業活動収支計算書の当年度収支差額はマイナスとなった。中央医療技術専門学校においては、令和3年度は、前年度と比較して在學生総数は微増であった。それにより収入も前年度より増加している。支出の方も前年度は新型コロナウイルスの影響で支出が縮小されていたこともあり、前年度より増加しているが、当年度収支差額はプラスとなった。学校全体として、学校を譲渡するという大きな変化があったが資金は増加しており、財務基盤は安定していると言える。
- ・予算、収支計画については、各部門から予算立案書を提出してもらい、事業計画に基づき且つ前年度実績と比較をしながら予算案を作成している。令和3年度は大きな乖離はなく適正に執行された。大きな乖離が生じた場合は適切に補正措置を行う。
- ・会計監査については、監事2名が事業説明を受けて、業務、財産の状況について監査を実地している。その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会へ報告している。私立学校法及び寄附行為に基づき、監事2名、税理士立ち合いのもと、監査を行った。
- ・財務情報に翌期の事業計画、予算書を加えた事業報告書を教務室においてあり、誰でも閲覧できるようにしてある。平成30年度よりホームページに財務情報を公開している。

〈今後の方策〉

- ・新型コロナウイルス感染対策の影響を受けつつも学生募集は、ほぼ例年通りに行うことが出来た。令和4年度の入学者定員については、昼間部において入学辞退者が例年より多く、定員を満たすことができなかった。夜間部においても定員を満たすことができなかった。応募者数も減少しており、収入の安定に向けて原因究明と対策が必要となる。
- ・財務基盤の安定は学生数の維持が必要不可欠だが、並行して経費についても綿密に精査していく。特に今後の設備投資については、過大にならないよう精査していきたい。令和4年度予算編成においては、申請のあった設備投資についてヒアリングを行い精査して予算計画を策定した。
- ・予算、収支計画については、事業計画、教育目標との整合性を図りつつ、各部門からの情報を正確に把握し、教育活動が計画通りに進行できるよう予算計画を策定していきたい。特に収入において、正確な数字を策定していきたい。
- ・財務情報については、昨年同様にホームページ上に公開する予定である。

9. 法令等の遵守

	評価項目	評価
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

〈現状〉

- ・診療放射線技師養成所設置基準・指定規則を遵守して学校運営を行っている。
- ・学生の成績等の学内掲示や保護者への送付については、事前に同意を得て行っている。また卒業後の住所、勤務先等の情報については、その取扱い毎に同意を得て取得している。
- ・自己評価委員会を設け評価している。評価後、委員会を開き項目ごとに検討した。
- ・本校 Web サイトの資料請求（学校案内書）およびオープンキャンパス等の申込みフォームからの収集した個人情報を適切に保護してるが、個人情報保護方針が明確になってない。
- ・平成 30 年度より自己評価結果をホームページで公開している。

〈今後の改善方策〉

- ・教職員・学生に対する法令等の遵守についてのルール作成等の検討が必要。
- ・学校として個人情報の取り扱いを再度確認し、意識の向上を図ると共に個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を明確にして本校 Web サイト上に公開する。

10. 社会貢献

	評価項目	評価
1	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	--

〈現状〉

- ・地域の技師会・研究会などの為に施設を提供している。今年度においては、9/5（日）に日本放射線治療専門放射線技師認定機構の試験会場として提供した。
- ・原発事故から10年以上経ち、葛飾区より要請されていた区の所有する簡易線量計の校正作業および放射線に関する公開講座は本年度も特に依頼はなかった。また、必要性が薄れてきたものと思われる。
- ・学生主体のボランティア団体（地域清掃）の活動を支援するとともに、費用の負担等を行い地域社会に貢献している。今年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学生活動は未実施となった。
- ・災害時等の避難場所として、災害時における相互協力の協定を葛飾区と本田町会との間で締結を継続している。

〈今後の改善方策〉

- ・コロナウイルス感染状況によりなかなか活動再開ができないが、ボランティア活動については状況を見ながら活動再開へ向けて検討していく。

以上